

みんなで考えよう！ 災害に 備える



毎年のように全国各地で自然災害が発生し、防災・減災の必要性が高まっています。災害対策には、自分自身や家族で備える「自助」、地域で備える「共助」、行政で備える「公助」の3つがあります。

今回は、「自助」「共助」それぞれで災害に備えているみなさんの特集です。

問 危機管理担当 34・1111内線279

2階
16番

水害に関する調べ学習が全国へ 自助

水害が起きた場合にどう対処すればよいかを調べ、「第12回宮代町図書館を使った調べる学習コンクール」で図書館長賞を受賞し、全国コンクールでは佳作を受賞した森田さんとお話伺いました。



「命を守る行動を」とは？

昨年6月、梅雨前線と台風2号の影響で埼玉県内でも浸水被害が相次ぎました。森田さんは、武蔵野線で川口市に行くことがあり、水田が水浸しとなっている様子を目の当たりにして衝撃を受けました。そのときテレビのアナウンサーが「命を守る行動を」と呼びかけていましたが、森田さんは「命を守る行動ってなんだろう」と疑問に感じ、水害について調べました。

マイ・タイムラインで慌てず行動

森田さんは、調べる中で水害時の避難行動計画「マイ・タイムライン」を作成し、家族と共有しました。

作成にあたっては、町民生活課を訪れ、抱いていた疑問を解消して作りました。避難時の持ち物は、水が引いて物資が届くまで足りるように3日分用意するなど、具体的に計画することができたといいます。避難先も、公設の避難所だけでなく、祖父母の家や垂直避難（自宅の高いところへの避難）など、様々な想定をしました。避難先をいくつか選べるようにしておくことで安心感が違うということが家族にとって新たな発見だったといいます。

森田さんは、「避難するタイミングなど行動すべきことがイメージできたので、災害があったときは慌てずに対応できそうです」と笑顔で話します。

4月から中学生になり、環境も変化しました。「マイ・タイムラインも環境の変化に合わせて更新していく必要があるね」とお父さん。お母さんも「マイ・タイムラインを共有しているので、家族がどこに避難したか予想を立てやすいです」と話してくれました。



▲作品の完成度の高さに驚く町民生活課職員（左）。森田さんは、図書館の本で調べる以外に春日部市の首都圏外郭放水路なども見学し、まとめています。
作品のレプリカは9月29日（日）まで図書館で展示されています。

マイ・タイムライン を作ってみよう！

マイ・タイムラインの作り方は、町ホームページに掲載しているほか、宮代町ハザードマップでもご確認いただけます。



宮代町ハザードマップ



マイ・タイムライン



携帯トイレの備蓄 をしましょう

災害時、断水や排水管の破損により、トイレが使えなくなることがあります。1人あたり少なくとも15回分（5回×3日分）の携帯トイレを用意しておきましょう。



上から排泄用の袋を
セットします

宮代町地域防災訓練に行こう！

地域の防災力強化を目指して10月20日（日）に笠原小学校で開催します。詳しくは10月号でお知らせします。ぜひご参加ください。

消防車・自衛隊車両の
写真撮影や乗車体験も
できます！



自分たちの地域を守るために 共助

和戸町内防災会

和戸町内防災会では電気やガスなどのライフラインがストップした場合に備えて、防災拠点となる和戸宿集会所に発電機を常備するなどしています。今回はその一部を拝見しました。



和戸町内防災会
会長 青柳さん

防災に関心をもって

防災会会長の青柳さんは、「防災会も高齢化が進み、若い世代の方にいかに参加してもらうかが課題となっている」と話します。

新型コロナの影響で子ども会や各イベントが縮小し、地域のつながりを育む機会も少なくなりました。地域の方々には、ぜひ防災に関心をもって地域のつながりを作ってもらいたいと、気持ちがこもります。「毎年行う地区の防災訓練は入念に計画しており、有意義なものとなっています。ぜひ足を運んでほしい」と呼びかけます。



▲和戸町内防災会のみなさんとガス発電機。ガソリン発電機に比べ災害時に燃料確保が容易になります。プロパンボンベ2本で約150時間発電可能。使用状況によっては約1週間の電気がまかなえます。



▲実際にガス発電の様子。発電の方法をマニュアル化し、誰でも操作できるようにしています。



▲スマホは今や生活必需品。スマホが充電できる充電ポートも用意しています。同時に150台までスマホを充電できます。また、Wi-Fiを設置し、通信量を気にせずインターネットを使用できます。

辰新田自主防災会

辰新田自主防災会は、日本工業大学と連携して防災訓練を行っているほか、定期的な防災研修会を開催しています。今回は、防災研修会の会場で会長の木村さんにお話を伺いました。



辰新田自主防災会
会長 木村さん

地域のつながりを大事にしたい

木村さんは、令和6年度から自主防災会会長に就任しました。かつての恩師から受けた「誠実と勤労」という言葉を胸に、「勤労の中に喜びがあると思うので防災会長も一生懸命やりたい」と力が入ります。

木村さんは、防災会長に就任してから地域の方々と挨拶をかわすことが以前より多くなったと感じています。「地域のつながりなしでは地域防災は成り立ちません。地域のみなさんには防災訓練などにぜひ参加してほしいです」と話します。



◀「Aさんは車椅子だから優先度が高いよね」「Eさんも自宅近くが川に近くて危険だよ」研修会では要介護者や視覚障害者、妊婦などの避難順を考えます。

過去の災害では、地域の声かけにより避難する決断ができたという声が多数あります。



◀辰新田地区では、災害時、家族や地域の方に安否を知らせる「安否確認表示カード」を世帯配布しています。玄関先等に掲示することで、一目で安否状態を知らせることができます。

大災害では、公助の手がすぐには届かないことがあります。そんなとき、地域の住民による助け合いが大切な命を守ります。自分にできることから考えてみませんか？